

KN グローカルリサーチレポート

2017年7月
No.15



まもなく七夕です。子どもたちは、願い事を書いた短冊や折り紙を笹の葉に飾り、七夕の夜空に天の川が広がるのを楽しみにしています。夏の夜空に広がる星々から、織姫星と彦星＝琴座のベガと鷲座のアルタイルを見つけてみませんか。

浜松市の国民健康保険

国民健康保険は基礎自治体である市町村が担い、全国で約 3,800 万人が加入している。(浜松市でも「国民健康保険特別会計」で運営されている。) 国民皆保険制度の下、もともとは自営業者や農林水産業者の健保であったが、近年は会社を退職した高齢者や、無職者や非正規雇用者の加入が増加している。表 1 の浜松市の国民健康保険加入者数を見ても、65 ～ 74 歳の浜松市民の約 75%が国民健康保険に加入している。

図 1 は、浜松市の国民健康保険の被保険者の推移を表している。被保険者総数は、H25 年 209,339 人から H29 年見込みでは 182,272 人と減少している。これは、75 歳以上が「後期高齢者医療保険」に移行している事による。一方、65 ～ 74 歳の高齢者の割合は 36.3%から 44.3%へ増えている。

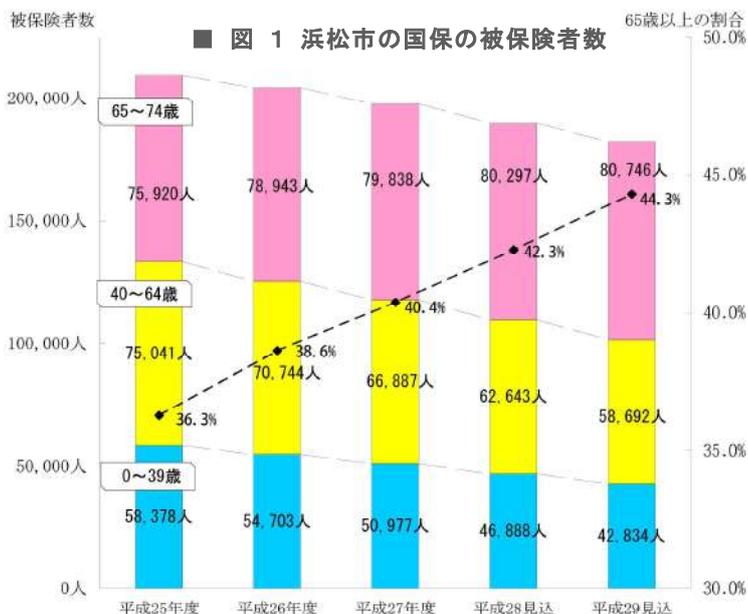
図 2 は、近年の保険給付費を表しており、550 ～ 560 億円で推移しているが、一人当たりの給付費は年々増えており、H29 年見込みは 30.8 万円となっている。

浜松市では今年の 4 月から、国保加入者の高齢化の進展と一人当たりの医療費の増加に伴い、5 年ぶりに保険料率を増額改定した。

■ 表 1 浜松市の国保加入者数 単位：人

年齢	H29見込	人口	割合
0～39	42,834	324,564	13.2%
40～64	58,692	268,077	21.9%
65～74	80,746	106,907	75.3%

出所)「国民健康保険運営協議会」資料
・人口はH29年4月1日の人口統計より



出所)浜松市「国民健康保険運営協議会」資料より

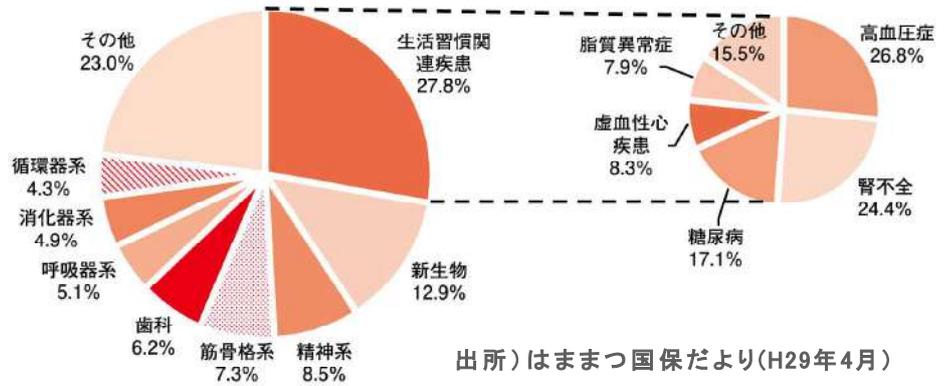
浜松市に限らず、各市町の国保財政は赤字が続いており、来年4月からは静岡県内の財政運営となる。県は各市ごとに「標準保険料率」を提示することになる。この「標準保険料率」はその市町に住む一人当たりの平均医療費も考慮されるため、各市町では、医療給付費の削減を目指して市民の健康増進に力を入れている。

■ 図3 疾患分類別医療費の状況 (H26年度)

図3は、H26年度の浜松市の国保加入者の疾患分類別の医療費の状況である。「高血圧」や「糖尿病」などの生活習慣関連疾患の割合が27.8%と最も多くなっている。

各人が普段から生活習慣病を意識して予防することで、

自身の健康増進がなされ、更には国民健康保険を持続可能な制度とする事に寄与する。



出所)はまつ国保だより(H29年4月)

健康ニーズ基本調査

(株)日本能率協会総合研究所「健康ニーズ基本調査2016」より



人々が「健康」について何を考え、どのような行動をとっているかを知る一つの参考資料として、(株)日本能率協会総合研究所の「健康ニーズ基本調査2016」がある。

例えば、健康維持のために健康志向食品を定期的に摂取している人は全体の54%で、男性の60代と70代、女性の40代と60代と70代は6割前後となっている。特に女性の50代は73%と最も多い年代であった。どんな健康志向食品を摂取しているかを見ると、「サプリメント」が30%、「栄養ドリンク」と「特定保健用食品」が1割台であった。高齢者人口は今後も増えるので、健康志向食品のマーケットは依然として底堅いと予測できる。また、気になる健康用語は、1位が「体脂肪」で58%、2位が「血液サラサラ」で45%、その他「疲労回復」「有酸素運動」「内臓脂肪」「免疫力」などで3割台後半となっている。このようなキーワードが商品開発や広告宣伝等の参考になる。

本調査では、「2001～07年の健康ブームの時代と比較すると、消費者全体としては健康意識や購買意欲が低下しているが、各属性によっては、特徴的な健康意識や活発な消費行動が明らかになった」としている。

このように、人々の健康へのニーズを表す統計データを読み解き、ターゲットを定めて、新商品開発や新サービスの提供、販売促進戦略などのビジネスに生かしていきたい。

執筆 = 西川公一郎：元浜松市議会議員、防災士

(公社)子どもの発達科学研究所 事務局長

(一財)日本総合研究所 客員研究員

浜松市中区 在住 ko-ichi@24kawa.org